

第8回 埼玉県競輪事業検討委員会 資料1

「埼玉県営競輪事業について」

埼玉県営競輪の概要

1 競輪場

- 全国で唯一の2場体制

■ 大宮双輪場

- ・昭和24年1月開設
- ・埼玉県が所有（使用料あり）
- ・東日本で初めて開設された競輪場
- ・実施可能：昼開催、モーニング



■ 西武園競輪場

- ・昭和25年5月開設
- ・西武リアルティソリューションズが所有
- ・実施可能：昼開催、ミッドナイト、ナイター、モーニング



2 競輪運営業務の包括民間委託

- 競輪施行者固有の事務（開催日程、賞金の決定など）、競技に関する事務（自転車の競走前検査、審判業務、出場選手のあっせんなど）を除き、**競輪事業に関する運営業務全般**（車券の発売・払戻、警備、清掃、イベント、広報宣伝、投票機器等の設置・保守点検、従事員の雇用など）**を一つの事業者に包括的に委託。（平成19年度から実施）**

- 本県の民間委託契約の特徴は、**売上に応じた収益の先取りと収益保証。**

➤ 委託料の金額

事業収入 - 施行者(県)負担費用 - 施行者(県)収益 = 委託料

➤ 埼玉県の収益計算

【本場】売上額×0.95%、【場外】売上×0.6%（最低保証3.7億円）

➤ 契約期間

5年（令和4年4月～令和9年3月）

受託者が投資を回収するために必要な期間（原価償却含む）を設定

【参考：委託料計算方法イメージ図】

各年度の事業収入（A）（車券売上等）

施行者が負担する費用（B）
（払戻金、選手賞金、県職員人件費など）

県
収
益
委
託
料

委託料算出式 $A - B - C = \text{委託料}$

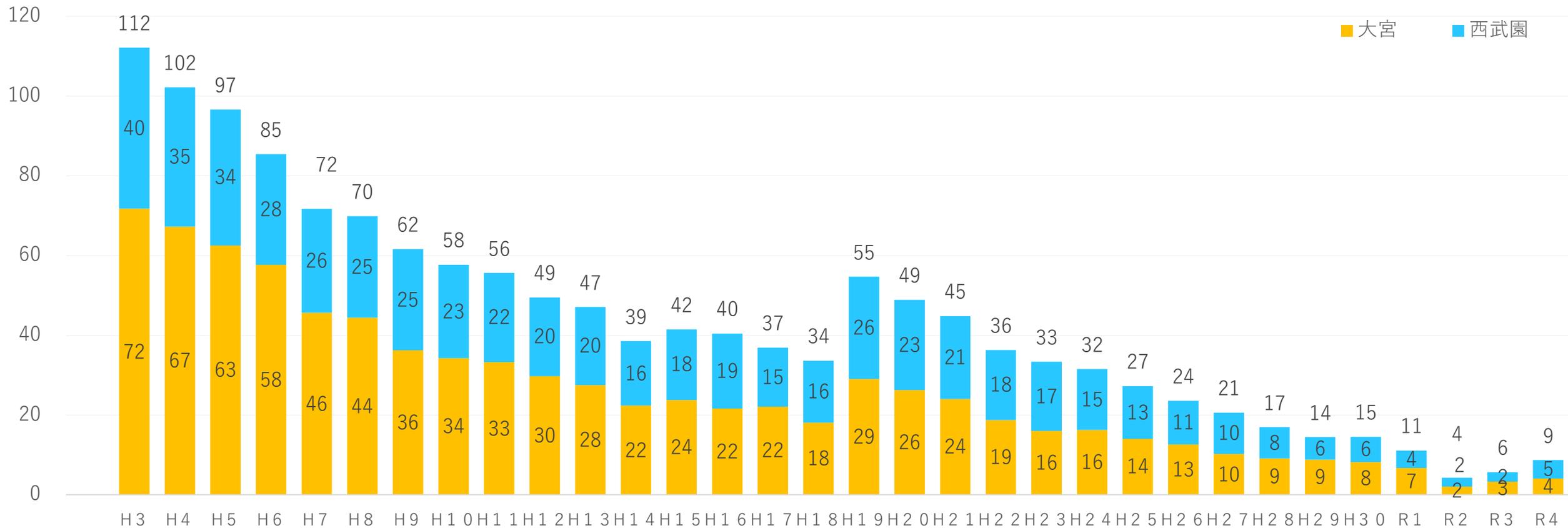
(C)

埼玉県営競輪の概要

3 埼玉県営競輪の入場者数

- 入場者数は減少傾向。（平成19年度は競輪事業から撤退した市町村開催を県開催とした影響で増えている。）
- 大宮の方が入場者が多い傾向。（入場者が減少していく中で、直近では大きな差はなくなっている。）

(単位：万人)



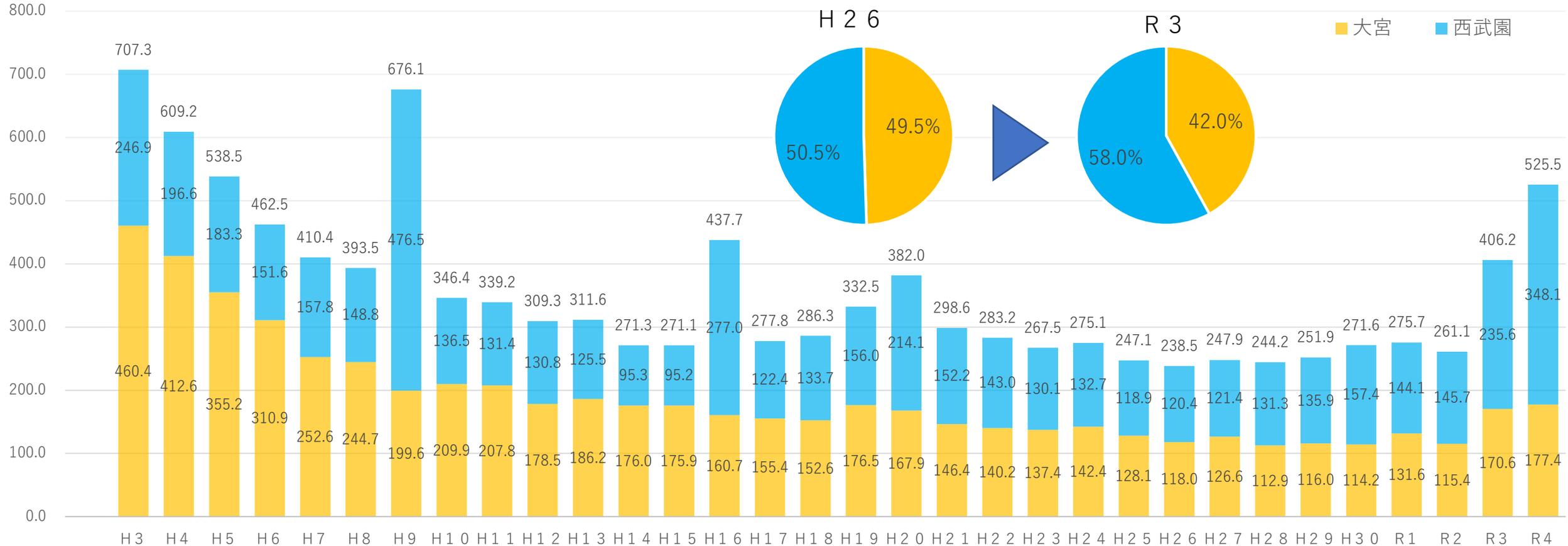
※H9,H16,H20,R4は西武園でG I 開催。R2はコロナの影響で6開催中止。

埼玉県営競輪の概要

4 埼玉県営競輪の売上

- 平成3年度をピークに売上は減少傾向であったが、平成27年度から売上は増加傾向。
- 売上の底となった平成26年度と令和3年度を比較すると、西武園の売上の割合が高まっている。（令和4年度はG I開催のため、単純比較はできない。）

(単位：億円)

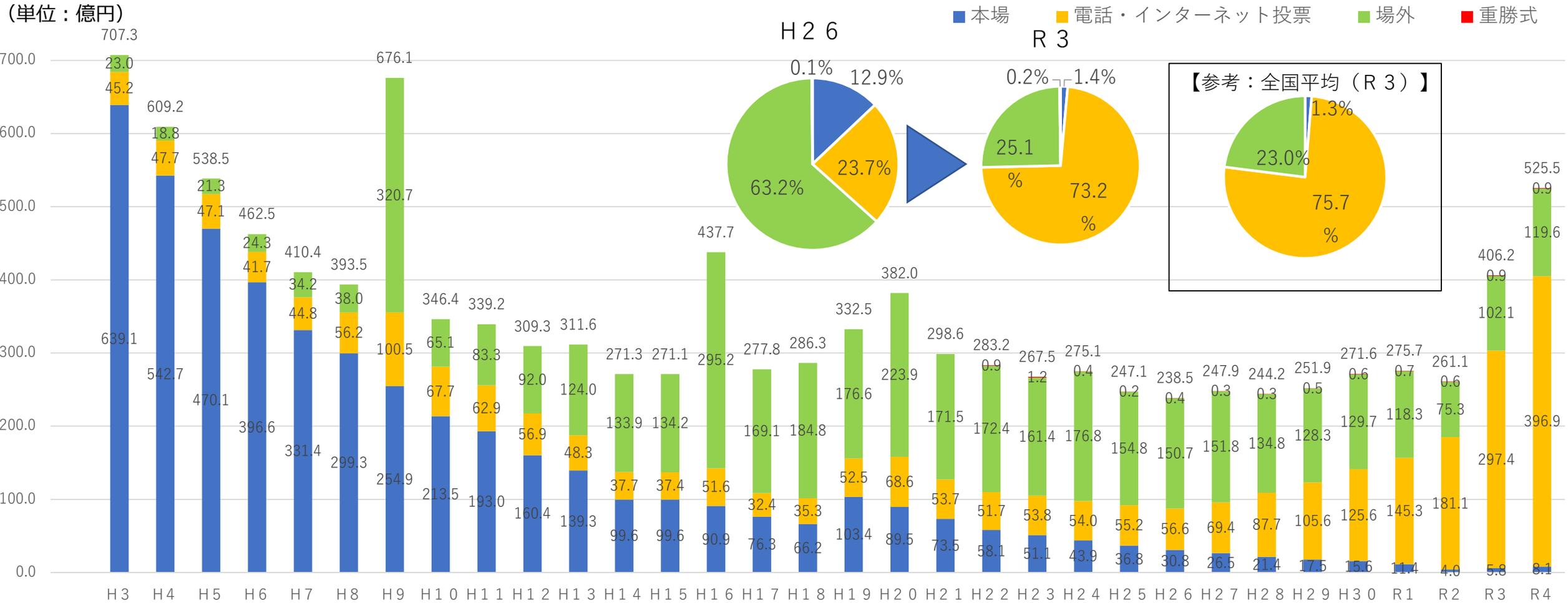


※H9,H16,H20,R4は西武園でG I開催。R2はコロナの影響で6開催中止。 ※売上には5重勝式、Dokanto!は含まない。

埼玉県営競輪の概要

5 チャンネル別売上の推移（2場）

- 近年の売上増加はインターネット投票の増加が大きく寄与している。
- 平成26年度と令和3年度の売上に占める割合を比較すると、電話・インターネット投票の割合が50%程度増加している。

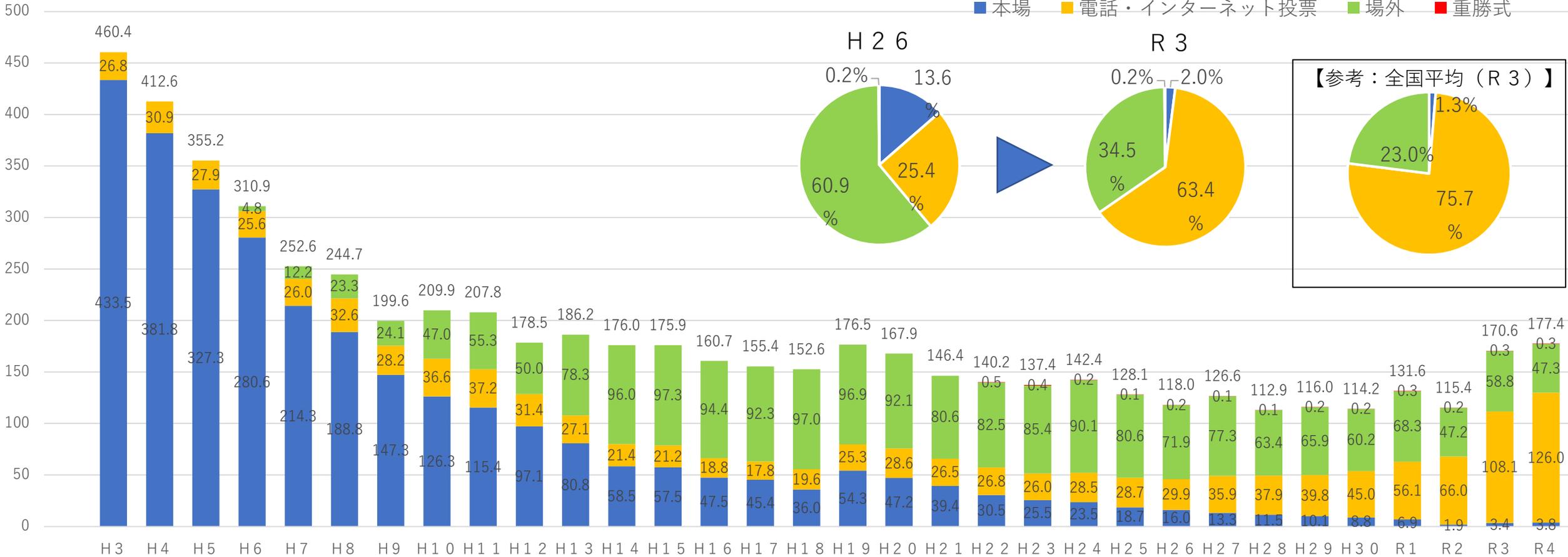


埼玉県営競輪の概要

6 チャンネル別売上の推移（大宮）

- 電話・インターネット投票の増加とともに全体の売上も増加している。
- 令和3年度の状況を全国平均と比較すると、電話・インターネット投票の割合が低く、本場、場外の割合が高い。

(単位：億円)

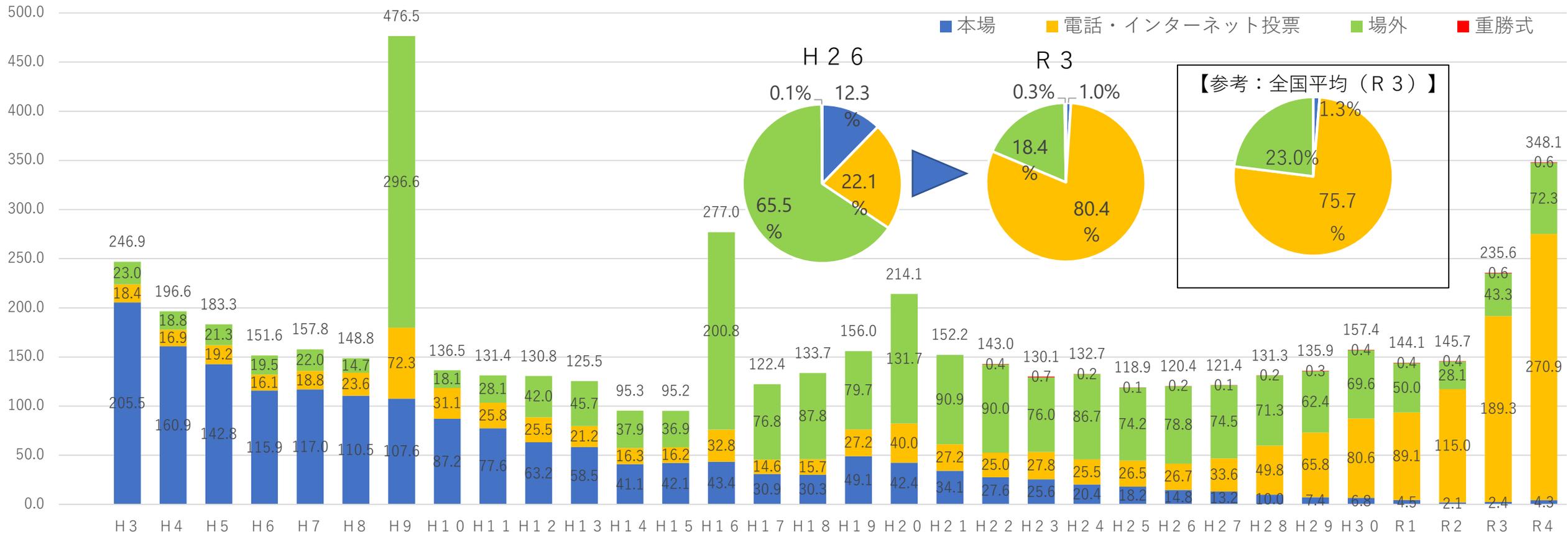


埼玉県営競輪の概要

7 チャンネル別売上の推移（西武園）

- 電話・インターネット投票の増加とともに全体の売上も増加している。
- 令和3年度の状況は、全国平均よりも電話・インターネット投票の割合が高く、本場・場外の割合が低い。

(単位：億円)

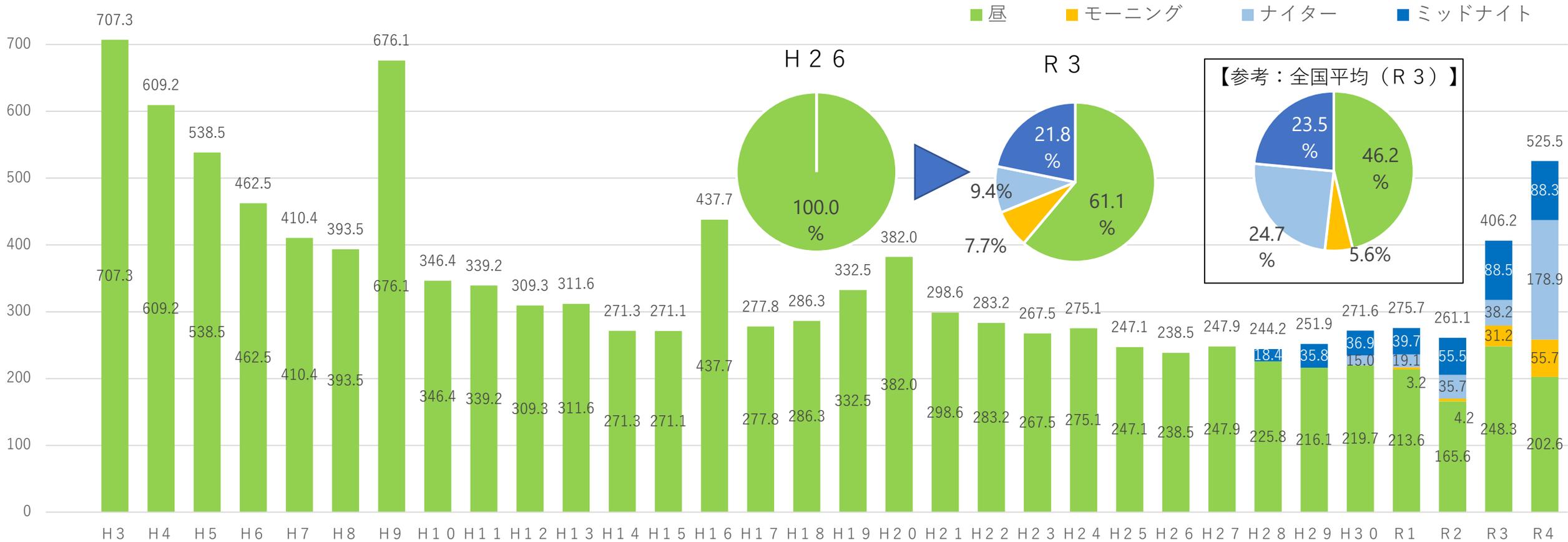


埼玉県営競輪の概要

8 開催時間帯別売上（2場）

- 平成28年度からミッドナイト、平成30年度からナイター、令和元年度からモーニングの開催を開始した。
- 近年、ミッドナイトやナイターの売上が全国的に見ても好調なことから、本県においても開催数を増やしたことで売上も増加している。

（単位：億円）

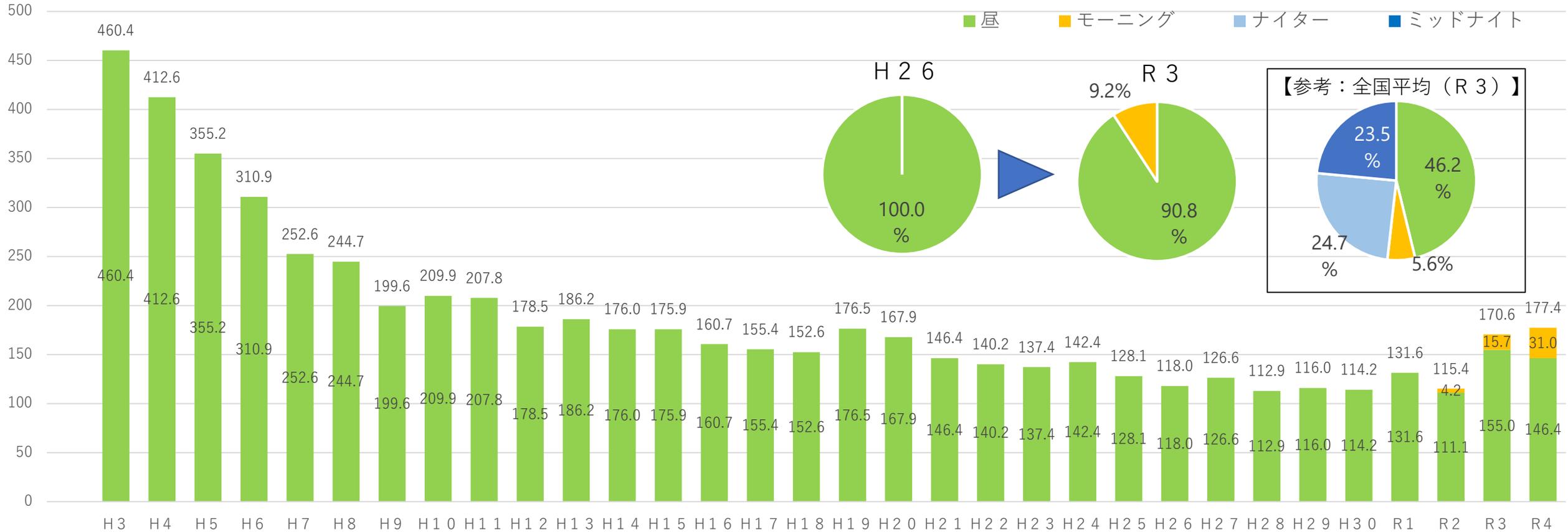


埼玉県営競輪の概要

9 開催時間帯別売上推移（大宮）

- 令和2年度からモーニングの開催を開始しているが、照明設備が無い等の理由からナイター及びミッドナイトの開催は実施していない。
- 同グレードの昼開催よりもモーニング開催の方が売上が好調であることから、近年はモーニング開催を増やしている。

（単位：億円）

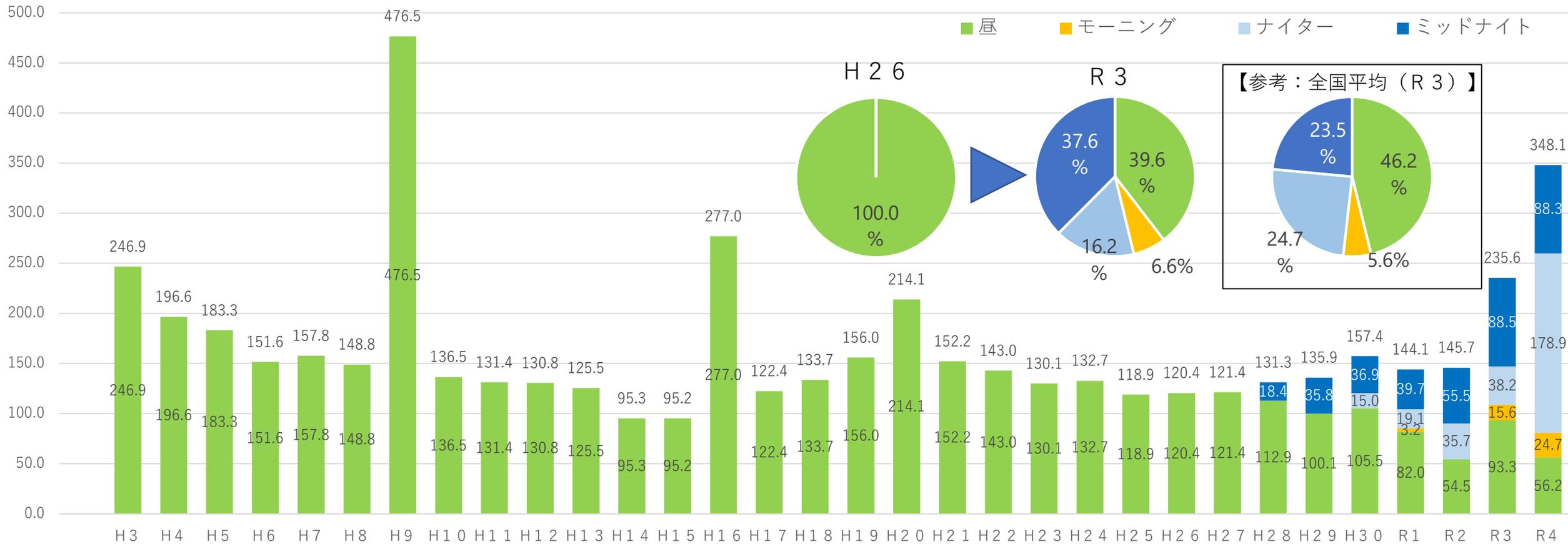


埼玉県営競輪の概要

10 開催時間帯別売上推移（西武園）

- 平成28年度からミッドナイト、平成30年度からナイター、令和元年度からモーニング開催を行っている。
- 令和3年度は昼間開催の売上が1番高かったが、令和4年度にはG I開催のあったナイターの他、ミッドナイトより低くなっている。

(単位：億円)

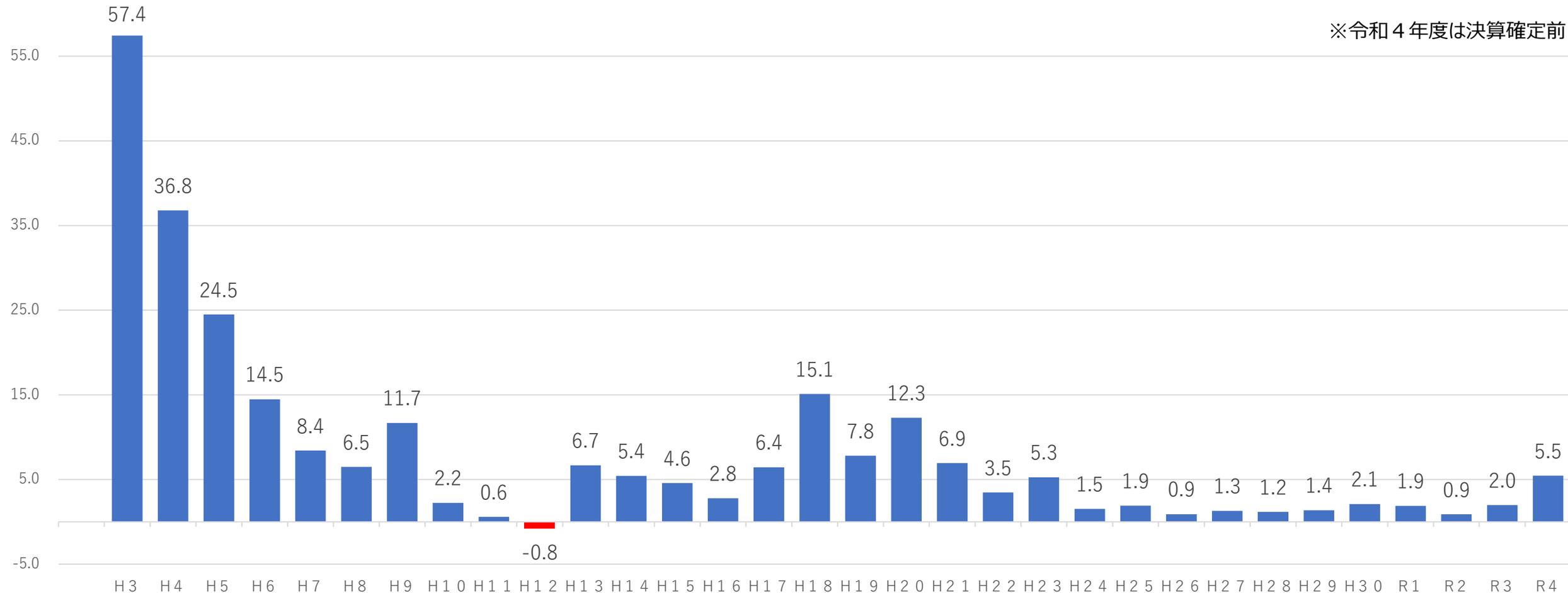


埼玉県営競輪の概要

11 埼玉県営競輪の収益金

■ 平成2年の57.6億円をピークに減少傾向で近年2億円を下回る状況が続いていたが、令和4年度には売上増加や新たな包括委託契約の締結により、県収益の条件が改善したことから、5億円を上回った。

(単位：億円)



12 課題に対する取組

- 埼玉県競輪事業検討委員会の報告書「県営競輪の現状と課題」で示された課題への対応策に取り組んでいる。
- ※の2つの取組について、次ページ以降で説明。

	課題	対応策
1	県収益の向上	<p>① 売上が見込めるレースの誘致(オールスター競輪誘致)※</p> <p>② 投資効果を考えた集中的な投資</p> <p>③ 西武園の受託場外発売の開催調整の再検討</p> <p>④ 大宮、西武園の車券を販売する場外車券売場の増加</p> <p>⑤ ギャンブル依存症に配慮した取組の充実</p>
2	競輪事業の活性化	<p>① 入場料の無料化(R5年度から無料化実施) ※</p> <p>② 競輪初心者向けのイベント、演出の実施</p> <p>③ 競輪場内でアートなどをテーマにしたイベントの開催</p> <p>④ 競輪場内への人気飲食店やカフェの誘致</p> <p>⑤ 競輪を楽しめる演出の実施</p> <p>⑥ 団体客誘致のためのBOX席設置の検討</p> <p>⑦ 地元を拠点としたエンターテインメント企業との連携</p> <p>⑧ スポーツ・バーと連携したネット車券販売の展開</p> <p>⑨ 学校との連携</p> <p>⑩ 競輪選手の意見を反映した取組の実施</p> <p>⑪ 大宮双輪場の大宮公園との一体化</p>
3	イメージアップ	<p>① スポーツとしての競輪の魅力発信</p> <p>② 自転車競技の普及に向けた取組の充実</p> <p>③ 社会貢献のアピールの継続的な実施</p> <p>④ 目的、方向性を掲げた事業の実施</p> <p>⑤ Jリーグのブランディングの研究</p>

埼玉県営競輪の概要

売上が見込めるレース誘致について（オールスター競輪の開催）

■ 日時 令和5年8月15日（火）～20日（日）（2年連続開催・昨年度は14年ぶりのG I開催）

■ 売上 **131億4130万3700円**（2022年 西武園 128億4116万2100円 / 2021年 いわき平 117億5373万2100円）

※5重賞式、Dokantō!の売上除く

■ 入場者数 6日間合計 **27,794名**（2022年 西武園 18,471名 / 2021年 いわき平 無観客開催）

■ イベント開催状況

●アンバサダー 魔裟斗（元キックボクサー・タレント）の起用による各メディア・SNSを有効的に使用したPR展開

●イベント演出 和太鼓演奏、重松流祭囃子

●エンタメステージ お笑いライブ：とにかく明るい安村、鬼越トマホーク、どりあんず

トークライブ：魔裟斗、近藤みやび（レースクイーン）、森且行選手（オートレーサー）、
ぷろたん（YouTuber）、かおりっきい（パチスロライター）、
高木真備・野原美咲・村上義弘（元競輪選手）

ダンスライブ：Medical Concierge i'moon（プロダンスリーグ）、地元キッズダンススクール発表会

チャリティオークション：埼玉支部競輪選手

●アニメコラボイベント（リンクイ！）：高木真備（元選手）、川村海乃・葵あずさ・岸尾だいすけ（声優）

●オールスター競輪大花火・オールスター競輪納涼祭（縁日、ふわふわ）・オールスター競輪グルメ屋台 など



入場料の無料化について

■ 概要

- 本場開催時の入場時に徴収してきた100円の入場料を無料化（令和5年4月～）

■ 取組内容

- 大宮・西武園競輪場の近隣に入場料無料化のチラシを配布。
- チラシ持参者への抽選会、キッチンカーの出店、選手のトークショー、入場者プレゼント、整体師の施術（一定額以上の購入者を対象）など様々なイベントを開催。

⇒ こうした取組により、競輪場入場者の高齢化・固定化に歯止めをかけ、女性や若年層、ファミリー層などの新規顧客を呼び込み、競輪場の活性化を図る。

■ 入場者数の状況（1日あたり入場者数の比較）

	R 5	R 4	前年比 (R5/R4)
2 場合計	730人	639人	114.2%
大宮	744人	697人	106.7%
西武園	719人	552人	130.3%



※各年度7月末時点で比較。（昨年度も入場料無料で開催したオールスター競輪の影響を除外）

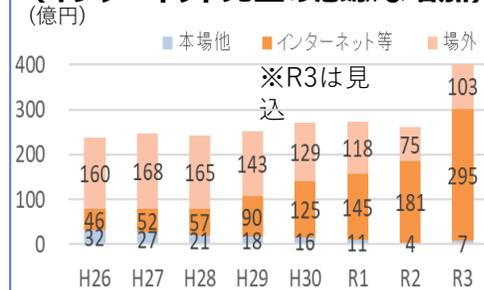
【参考】埼玉県競輪事業検討委員会報告書 「県営競輪の現状と課題」 (概要版)

1 県営競輪の現状

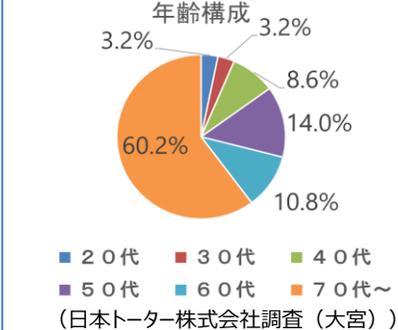
○ 入場者数の減少傾向、車券売上は下げ止まりから増加傾向へ



○ 売上構造の変化 (インターネット売上の急激な増加)



○ 来場者の高齢化



○ 全国唯一の2場体制

- 大宮双輪場 S24開設
照明設備なし、ナイト未実施
- 西武園競輪場 S25開設
H28年度ミッドナイト競輪開始



2 課題と対応

課題1：県収益の向上

競輪事業は収益をあげ、県財政に貢献しなければならない。
この目的を果たすため、より多くの収益を生み出し、その収益を県民に還元できる事業とする必要がある。

(対応策)

- G I レースなど大きな売上が見込めるレースの継続的な誘致
- ネット利用者向けキャンペーン等、効果を考慮した集中的な投資

など

課題2：競輪事業の活性化

入場者数の減少傾向や高齢化を考えると、競輪事業の継続的な発展のためには新たなファン層の開拓を行う必要がある。

(対応策)

- 競輪場入場料の無料化
- YouTuberによる競輪紹介動画作成など競輪初心者向けサービスの拡充
- 団体客誘致のためのBOX席の導入検討
- スポーツバーと連携したネット車券販売の展開

など

課題3：競輪のイメージアップ

委託事業者が競輪場のイメージについて調査したところ、多くの人が競輪場に良い印象を持っていないという結果が出た。競輪事業の目的周知やイメージアップを図る必要がある。

(対応策)

- オリンピック種目であることを活用した競輪の魅力発信
- Jリーグのブランディングの研究

など

課題4：中長期的な課題

事業環境が大きく変化する中で、県財政、県民への貢献という責務をどのように果たしていくか、検討する必要がある。

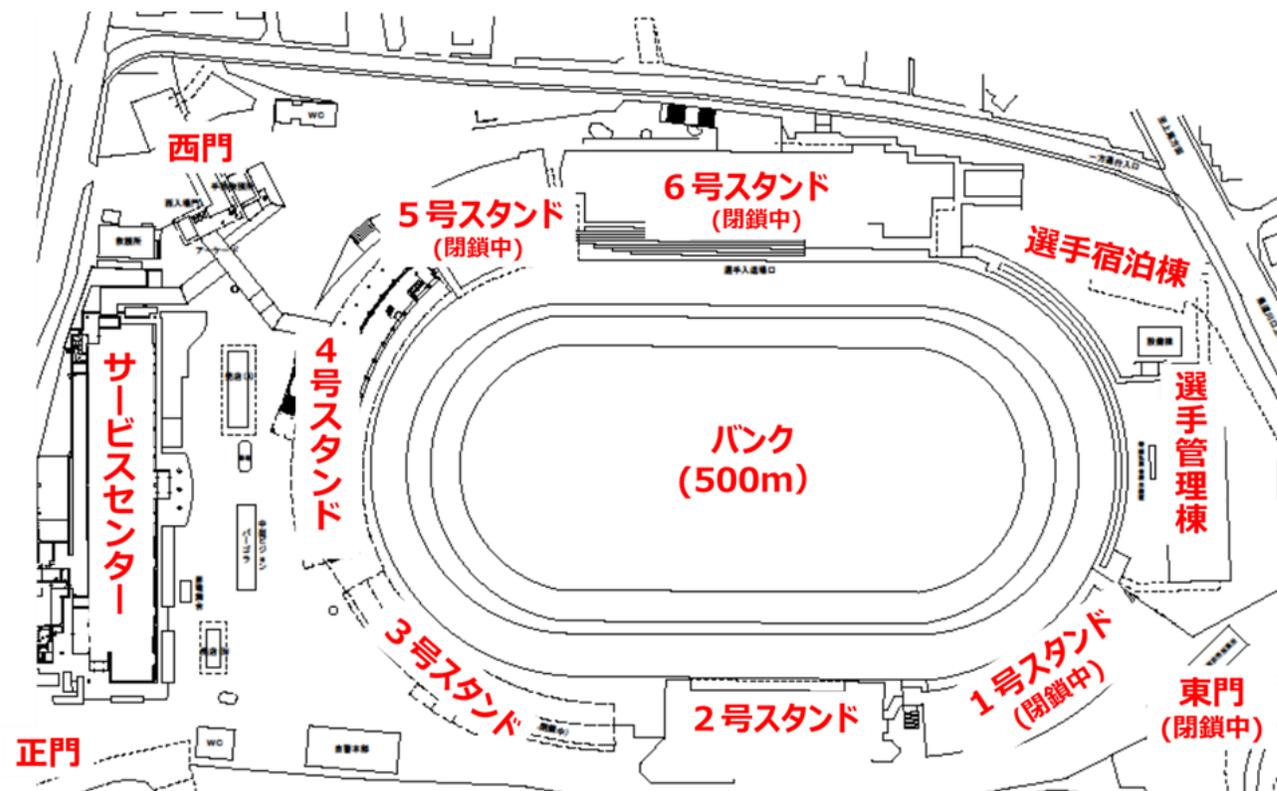
(委員からの意見)

- 売上が好調なこともあり、当面は大宮と西武園の2場体制を継続
- 収益最大化のため、1場に思い切った投資を行うなど投資の選択と集中を検討
- 効率的な施設活用の観点から、他のスポーツ練習施設、会議室、災害時の避難場所など、複合的な施設となるよう検討するべき

など

競輪事業を取り巻く環境について（大宮公園陸上競技場兼双輪場の老朽化）

1 全体図（建物配置）



2 歴史

- 1939（昭和14）年 双輪場完成
日本初の自転車競技場
- 1940（昭和15）年 陸上競技場完成
- 1948（昭和23）年 陸上競技第2種競技場に登録
- 1949（昭和24）年 第1回大宮競輪開催
東日本初の競輪開催・全国2例目
- 1951（昭和26）年 第1回全国都道府県対抗競輪（特別競輪）開催
- 1993（平成 5）年 陸上競技場登録を廃止

3 建物の状況

※3～5号スタンドは耐震補強工事済み

建物名称	竣工年	建物名称	竣工年
1号スタンド	H 5	6号スタンド	S 5 7
2号スタンド	H 2	サービスセンター	S 6 1
3号スタンド	S 3 4	選手管理棟	S 5 8
4号スタンド	S 4 0	選手宿泊棟	H 7
5号スタンド	S 5 4		

- いずれの建物も耐震性能上、問題はないが、老朽化は進んでいる。
- 外壁の剥がれや雨漏りなどが散見され、定期的な補修工事が必要。
- 照明設備がなく、ナイターやミッドナイト開催が不可。

競輪事業を取り巻く環境について（大宮スーパー・ボールパーク構想等①）

1 構想の概要

ビジョン

- ・大宮公園の魅力向上を呼び水に、大宮のまち、埼玉県の良さを多くの人に知ってもらい、埼玉県を訪れていただく

コンセプト

- ・『試合がある日もない日も楽しめる公園』

構想のねらい

- ・公園整備の基本的な方針を示すもの
- ・県の考え(構想)を示すことで、民間の参入・創意工夫を触発
- ・公園全体の魅力向上とともに、賑わいの核とすることで、公園から地域へと賑わいを波及させる



2 整備の方向性

現状の課題

エリア空間の方向性

エリア全体

- ・来園者が滞在できる空間の創出
- ・回遊性が得られる通路の確保

施設内容の方向性

試合がある日

- ・滞在を促す機会の創出
- ・観戦を楽しく過ごせる施設の整備

試合がない日

- ・競技以外での様々な目的での利用の展開
- ・競技施設の開放的な活用

競技施設の再整備

『賑わいと交流をもたらす空間の創出』

- 多目的利用ができる自由度の高い広場空間を創出
- 回遊性向上や沿道利用を意識した多機能な動線空間を創出

競技施設及び創出空間への新たな施設の導入

『観戦も観戦前後も一日楽しめる施設の充実』

- スポーツ観戦前後にも滞在したくなる施設整備
- スポーツ観戦をより楽しむための施設強化
- スポーツ観戦の裾野を広げる施設整備

『競技施設を楽しみ尽くせる施設・コンテンツづくり』

- 競技施設と公園をシームレスにつなぐ施設整備
- 多目的な利用ができる施設整備
- 競技施設の魅力や機能を活用したコンテンツづくり

整備の方向性

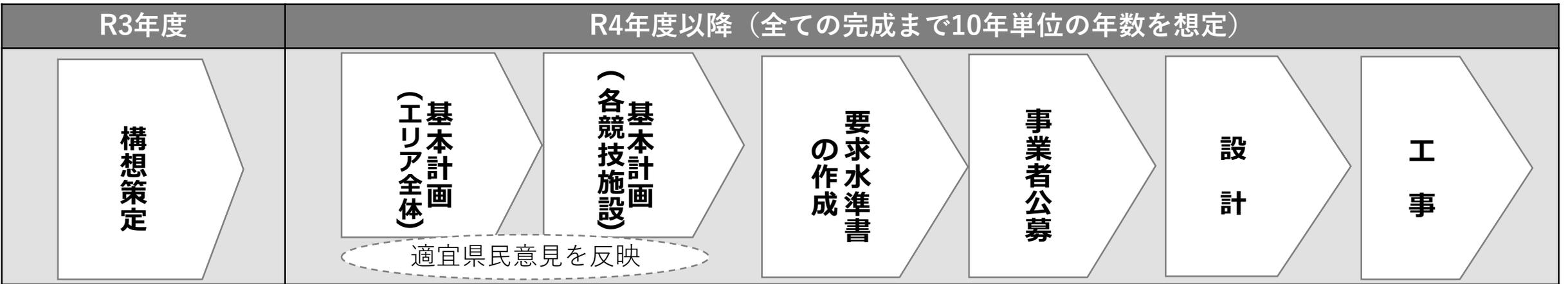
競輪事業を取り巻く環境について（大宮スーパー・ボールパーク構想等②）

3 整備パターン

A案	B案	C案
競技施設を全て建替え 賑わい空間を確保	野球場を建替え サッカー場を修繕 新たな運動施設 の整備 賑わい空間を確保	サッカー場を建替え 野球場を大規模改修・修繕 新たな運動施設 の整備 賑わい空間を確保

※ 自転車競技場は新たな運動施設の例として、提示されている。

4 スケジュール



■ 令和5年度当初予算 附帯決議

大宮公園陸上競技場兼双輪場については、老朽化により陸上競技場としての機能は既に喪失しているとともに今後のコスト増大が明らかであり、大宮スーパー・ボールパーク構想の阻害要因となっている。

大宮公園陸上競技場兼双輪場の使用期限を明確にするとともに、民間資金・ノウハウを活用した施設整備を前提に検討し、それらを活用できない場合は一場体制も視野に期限を決めて検討すること。